

# 第1回 移動等円滑化促進方針策定協議会 議事要旨

## 開催日時

令和3年9月17日(火) 13時15分～14時20分

## 委員出席者

19名

## 会長選出

「江戸川区移動等円滑化促進方針策定協議会設置要綱」第5条第2項の規定に基づき、菅原麻衣子委員に決定。

## 副会長選出

「江戸川区移動等円滑化促進方針策定協議会設置要綱」第5条第4項の規定に基づき、副会長は、菅原会長から指名し、松本勝義委員に決定。

## 区の現状や取り組みについて事務局より説明

### 【主な意見交換】

- ・「ともに生きるまちを目指す条例」の条文には災害等への対応について書かれているが、例えばバリアフリーマップは防災マップとして紐付いているのか。障害者の場合、なかなか一般的な避難所が使えなかったり、避難路とされている経路が通れなかったりといったことが予想される。
- ・自治体がバリアフリーに関する情報を様々な手法で発信しているが、必要な方に必要な情報が届くかという部分が非常に難しいところで、どの自治体でも手探りで進めているような状況である。
- ・バリアフリーマップの存在を知らなかった。紙媒体も高齢者等には必要だと思うが、電子媒体も非常に大事になる。他のサービス(ウィーログやBマップアプリ等)と連携するのも良い。区の情報を掲載できれば、多くの方に情報が届くと思う。
- ・船堀地区では、区役所本庁舎の移転、商業施設の新設等、新しいまちづくりの検討が行われている。区内の商店街は衰退等の様々な問題を抱えているが、SDGsの理念も踏まえて、これからの商店街のあり方を考えていかななくてはならない。
- ・杖を持って歩いている方などが年々目に見えて多くなっている。健康で長生きする高齢者だけではなく、高齢者一人ひとりが問題意識を持ち、これからの高齢化社会をどのようにしていきたいか考えていく必要がある。誰もが年を重ねるので、高齢になっても気軽にまちに出かけられる環境が非常に大事だ。

## 外国人アンケート調査内容等についてコンサルタントより説明

### 【主な意見交換】

#### <外国人アンケートについて>

- ・以前と比べ、外国籍の方がより身近に暮らしていると感じる一方で、価値観のズレで大きなトラブルになることもよく耳にする。そのような中で、このアンケートは、どのようにお互いを理解できるかということを目指したものになっていてよいと思う。
- ・外国籍の方にとって一番難しいのは区役所や制度のこと。初めて日本に来たとき、福祉制度等、何ができて何ができないのか、どこに聞けばよいのか分からないことが多かった。トラブルももちろんあると思うが、制度的なことや医療については最も大きな壁だと感じる。

#### <専門職・団体アンケートについて>

- ・高齢者や障害者を支援する方々へのアンケートは、当事者に直接聞く場合とは違う視点も入っており評価できる。介助する時のバリアだけではなく、「自立」の視点も考慮したつくりになっていてよいと思う。
- ・一般的な当事者の方に対するアンケートの場合、経験に基づき回答して頂くことが多いが、支援者側からは、複数の観点から客観性をもって回答頂けると期待している。その結果を、バリアフリーやユニバーサルデザインを進めていく際に活かしていくことができる。
- ・高齢者、障害者といった枠にはめがちだが、高齢者といっても身体状況はさまざまである。障害についても同様で、一口に視覚障害といっても個々に違いがあるため、ひとくくりにして議論することは難しい。いろいろと工夫を凝らしながら策定していきたい。